

産経新聞 24.2.7

## 出雲大社の「心御柱」を永久保存 奈良で5年かけ樹脂加工

島根県出雲市の出雲大社で平成12年、境内で出土した国の重要文化財「心御柱」<sup>しんのみはしら</sup>を、奈良市の元興寺<sup>がんごうじ</sup>文化財研究所で樹脂加工による永久保存処理を行うことになり、7日、搬送準備が行われた。8日に搬送する。

心御柱は直径1メートルあまりのスギの巨木3本を束ねた柱根。同年春に出土した字豆柱<sup>うずぼしち</sup>（側柱）に続いて、宮司家に伝わる図面通りに見つかり、“高層神殿”が実在した可能性を示した。

心御柱は、これまで県埋蔵文化財センター（松江市）で大型水槽につけて保管していたが、奈良市の元興寺文化財研究所で今後約5年かけて木の細胞組織に合成樹脂を浸透させ、永久保存処理を施す。

この日は、水槽の中から取り出した心御柱を和紙で包むなどして保護した。出雲大社は「保存・公開の方法など今後、具体的な検討を始めたい」としている。